

粟島浦中学校【グランドデザイン】

学校教育目標及び令和6年度重点目標

【学校教育目標】

- ・自ら進んで学習する子ども(知)・思いやりを持ち助け合う子ども(徳)・めあてを持って体を鍛える子ども(体)

【令和6年度重点実践事項】

- ・「自ら学ぶ児童生徒の育成」を目指した授業改善の推進(知)
- ・自己理解と他者理解の双方向による人間関係づくり(徳)
- ・年間を通じた基礎体力の向上に向けた取組の推進(体)
- ・島の資源や海洋を活用した未来を切り拓く郷土愛の育成(地域)



豊かな人間性	健康・体力
・認め合い、思いやる心 ・感動する心	・運動に親しむ・体力向上・生活習慣の確立

資質・能力の育成

何ができるようになるのか (学校教育の基本)	何が身に付いたのか (学習評価を通じた学習指導の改善)
<ul style="list-style-type: none"> ・生活に必要な知識・技能を習得することができ、より豊かに生活を向上させる。 ・困難に対して、自他のよさ(個性・可能性)を理解し、個性を発揮しながら、よりよい関係の中で他者と協力しながら問題解決を図ることができるようになる。 ・様々な状況に対して、柔軟に対応できるようになる。 ・自分の意思を明確・簡潔に、又は、豊かに表現することができるようになる。 ・学習したことや体験したことを振り返り、次の学びに生かすことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習したことや体験したことが、学校生活や日常生活のどこに生かし豊かな生活につなげるか考えている。 ・学習の振り返りや他者とのかかわりから、自分の考えを広げたり深めたりし、思考の再構成をしている。 ・学習によって身に付けたい知識・技能から、新たな気付きや課題を発見し、よりよい生活に向け解決しようとしている。 ・校外でも自他のよさ(個性・可能性)を理解して自分の力を発揮し、友達と協働しながらよりよいものを創り上げることができる。

子供の発達をどのように支援するか

- ・一人一人を尊重し、一人一人の教育的ニーズや課題を把握し、適切な支援を行う。
- ・SSTや哲学対話などをおして様々なコミュニケーションスキルを身に付けさせる。また、クラスミーティングをとおして信頼関係を築き、困難に対し、他者と協力しながら問題解決を図ろうとする態度(社会性)の育成を図る。
- ・意思決定、TPOに基づいた効果的な合意形成の場面を意図的に設定する。
- ・活動のねらいを明確にして取り組む(作成文書に身に付けさせたい資質・能力の番号を明記)。
- ・自己理解、他者理解を相互に深めることで、自他のよさ(個性・可能性)を理解し、自己肯定感や自己有用感をもたせ、集団の中での自己存在感を高める。
- ・定期的に行う教育相談の充実を図り、年間を見通して生徒の心の変化や心配事に対応した積極的・予防的生徒指導を心がける。
- ・9年間を見通したキャリア教育の充実を図るとともに、郷土を愛し、郷土の未来を考えた指導を心がける。

何を学ぶか(教育課程の編成)	どのように学ぶか(教育課程の実施)
<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力・基礎体力。 ・情報を比較、関連付けて、整理する力。 ・聴いて、つなげて再構成する考え方。 ・自分の考えの変容や成長を把握する力。 ・言語能力・情報活用能力・問題解決能力・コミュニケーション能力。 ・困難に対し、他者と協力しながら問題解決を図ろうとする力。 ・「海」を中核とした教科横断的な学習をとおして郷土における持続可能な社会の実現を考える力。 ・郷土愛と粟島の未来について考える力。 ・タイムマネジメント能力。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体育の授業、ラジオ体操や昼休み等の隙間時間を有効活用した体力向上に向けた取組。 ・教師と生徒が相互に学びを評価し、自分自身を改善しながら学びの質を高めていく(単元計画表とルーブリックの継続的活用)。 ・「SST」の手法や「哲学対話」を活用したコミュニケーションの充実 ・単元テストの実施と分析による授業改善。 ・各教科の既習内容と総合的な学習の時間の学習内容を関連付けた教科横断的な学習の展開。 ・「MANAVITIME」を有効活用した振り返りや家庭学習の習慣付け。 ・ICT機器をより有効に活用した授業展開。



実施するために何が必要か (指導体制の充実、家庭、地域との連携・協議)

- ・校内研修の充実(「自ら進んで学ぶ児童生徒の育成」に向け、授業改善につなげる)。
- ・職員研修の充実及び職員自らが時間を意識した行動の徹底。
- ・定期的な教育相談とチャンス相談の実施(状況に応じたSC・外部機関(SSW)との連携)。
- ・迅速かつ適切な初期対応及びチーム対応(生徒指導主事を中心とした組織運営。「報・連・相」と「複数による確認」の徹底・情報の共有化)。
- ・いじめ・不登校を生まない学年・学級経営(SST、哲学対話、クラスミーティングなどを取り入れたコミュニケーション力の向上と信頼関係の構築)。
- ・家庭・地域との情報共有及び連携・協働並びに地域への積極的な参画。
- ・学校運営連絡協議会との連携・協働とコミュニティスクール開設に向けた取組。
- ・生徒のよさ(個性・可能性)を認め、伸ばすことのできる教師力。
- ・一人一人の教職員のよさ(個性・可能性)が生かされる校務分掌組織の構築。
- ・共育センター会議における教育委員会・各主管との情報共有及び連携・協働
- ・職員、生徒、保護者の信頼関係を土台にした教育活動の推進。
- ・『10%の改革 70%の手ごたえ 100%の自信』で挑む職員集団。